

身近な鳥たちの観察Ⅱ（1年半のまとめ）

浜松市立曳馬小学校

6 年 小粥 暁斗

1 動機

ぼくは、小学校 1 年生のころから鳥が好きでバードウォッチングを趣味にしている。最近では、いろいろな場所で珍しい鳥を探すことが面白くなり、県外にもカメラを持って出かけている。



小学校 5 年生になったころ、テレビで「家の周りにはスズメが多く見られてきたが、最近は少なくなってきた」と言っているのを聞いて、本当にそうなのかなと思った。そして、実は身近な鳥のことをよく知らないなと思った。だから、あらためて家の近くにいる鳥を観察して、どんな鳥が、どんな条件で見られるのかを調べることにした。

2 方法（研究の手順）

毎日、朝と夕方に鳥を観察して、天気や見た鳥の種類と数を記録し、鳥の写真を撮る。

観察する場所は、自分の家の二階のベランダにした。家の隣がお寺で、その庭に木がいっぱいあり、よく鳥を見かけるからだ。また、近くに川があって水鳥も見られる。そこで、家やお寺の庭、近くの電線、近所の屋根などに止まっている鳥や飛んでいる鳥をベランダから観察している。

3 目的ごとの研究方法と仮説

① スズメは少なくなっているのか？

他の鳥と数を比べてスズメが一番多かったら、「一番身近な鳥はスズメ」と言える。その後、昔のことを知っている野鳥の会の人にインタビューして、最近スズメが少なくなっているのかを聞く。

【仮説】登下校で一番よく見かけているから、少なくなっていない。

② 天気で鳥の数は変わるのか？

天気別に、種類ごと鳥の数を比べることで、晴れの日によく見られる鳥や、雨の日でも見られる鳥がわかる。その鳥が晴れに多い理由を考えれば、その鳥は雨に弱いなどの特徴がわかると思う。

【仮説】雨だと羽がぬれて視界も悪くなるし、晴れはまぶしいので、くもりが一番多い。

③ 時間帯で鳥の数は変わるのか？

毎日、朝 7 時と夕方 4 時に観察して、同じ天気や季節でも、朝と夕方で種類ごと鳥の数が違うかどうかを調べることで、朝に活動する鳥もわかる。

【仮説】朝に鳥の声で目が覚めることはあるが、夕方はあまり声を聞かないので、朝の方が多い。

④ 季節によって見える鳥の数は変わるか？

10 日間ごとで鳥の数（種類ごと）を比べて、時期によって数が変わる鳥を調べる。ツバメなどの渡り鳥もいるが、スズメなどの身近な鳥も季節で変化するのかを調査したい。

【仮説】渡り鳥以外にも、ヒナが巣立った後はその鳥の数が増える。

4 研究の結果

① スズメは少なくなっているのか？

1年半の間、毎日朝夕観察したが、習い事や旅行などで観察できない日もあって合計 903 回観察し、見ることができた鳥は 31 種類、のべ 7362 羽だった。

そのうちの 17.9%、のべ 1320 羽がスズメであり、最も多く見ることができた鳥だった(表①)。この観察結果から、少なくともぼくの家の周りではスズメが最も身近な鳥であると言える。

順位	鳥の種類	数	割合
1 位	スズメ	1320 羽	17.9%
2 位	ヒヨドリ	1265 羽	17.2%
3 位	カラス	1010 羽	13.7%
4 位	ムクドリ	967 羽	13.1%
5 位	キジバト	474 羽	6.4%

【表①】1年半の観察結果

ただし、昔と比べて減っていないのかは分からない。そこで「日本野鳥の会」の人にインタビューしてみた。世話人の人の答えは「スズメは減っているらしいけど、あまり感じない」だった。

【考察】

1年半の観察の結果、スズメが 1 位だった。ぼくの調査結果と野鳥の会の人のインタビューから、「スズメが昔よりも少なくなっている」とは言えない。

昔と比べて田んぼが減り、エサとなるお米がとれなくなったから、人里でスズメが減ってきたとテレビで言っていた。しかし、カマキリなどの虫をくわえているスズメも観察できた。お米だけでなく、いろいろなものを食べているので、今も人里にはスズメが多いのだと思う。

② 天気で鳥の数は変わるのか？

データをたくさん集めた結果、カラスやヒヨドリは晴れ・くもり・雨でも数がほとんど変わらないが、ムクドリ、スズメ、シジュウカラなどは雨のときは少なくなる。その鳥を体の大きい方から並べてみたら、大きな鳥は天気によって、見られる数があまり変化しない(表②)ことがわかった。

鳥の種類	大きさ	炒	晴れ	雨
カラス	46~56cm	大	1.14	1.25
ヒヨドリ	28cm		1.48	1.25
ムクドリ	22cm	小	1.17	0.39
スズメ	15cm		1.56	0.72
シジュウカラ	12~14cm		0.39	0.26

【考察】

鳥は胃袋が小さく、常にエサを探していないと空腹になってしまう。そのため、天気に関係なくいつも飛んでいる。ただし、種類によっては、天気の影響を受けやすい鳥、受けにくい鳥がいる。体が大きな鳥は体温を保ちやすいのに対し、体が小さい鳥は寒さや雨に弱いと考えられる。

【表②】天気ごとに見られた数の平均

③ 時間帯で鳥の数は変わるのか？

朝夕で見られる鳥の数は、朝が多い時期と夕方が多い時期があるが、全体ではあまり変わらない。

しかし、鳥ごとに並べてみると、違いがあることがわかってきた。ほとんどの鳥は、夕方より朝の方が多く見られる。しかし、カラスとキジバトは夕方の方が多く見られた。

【考察】

天気と同じく、朝でも夕方でもエサを探すために飛んでいるが、鳥の種類によっては、朝に特に活動する鳥、夕方にまとまって飛ぶ鳥などがいるのだと思う。「夕焼け小焼け」の歌に「カラスと一緒に帰りましょう」という歌詞があるように、カラスは夕方の鳥なのかもしれない。

③ 時期によって見える鳥の数は変わるか？

夏鳥のツバメや冬鳥のツグミ、ジョウビタキのように渡り鳥の数が変わるのは予想していたが、観察の結果、留鳥であるスズメやムクドリの数も時期によってとても違っていた。留鳥は一年中、同じくらい数が観察できると予想していたが、スズメは 6 月には毎日 3~6 羽くらいを見ることができたのに、7 月下旬からは平均で 1 羽くらいになってしまった。ムクドリは 7 月や 8 月はほと

んど見られなかったのに、10月中旬から増えて11月上旬と中旬は平均6羽だった。

【考察】

『鳥のくらし図鑑』には、留鳥も若いうちは移動していることが書かれていた。また、観察の結果、本には載っていないメジロの変化も見られた。地球の気候変動が影響しているのかもしれない。

また、スズメはヒナが巣立ったから、ムクドリは夕方の観察時間がねぐら入りのタイミングと重なっていたから多く見られたと考えられる。

5 新しい疑問

同じハトでもカワラバトとキジバトは天気や時間帯で特徴が異なっていた。その理由はこれから研究していきたい。

	カワラバト（ドバト）	キジバト
特徴	・外来種。 ・体長は33 cm。 ・種子を食べる。 ・日本やユーラシア大陸、北アメリカに生息する。 ・伝書鳩などの目的飼育していた鳥が世界中で野生化している。 ・いろいろな模様がある。 	・在来種。 ・体長は34cm。 ・種子や果実を食べる。 ・東アジアや、インドに生息する。 ・名前の由来は、羽の模様が、キジの雄に似ているから。また、木地のような羽色だからキジバト。 
天気	雨に弱い（雨の日はほとんどいない）	雨に強い（晴れの日より多い）
時間	圧倒的に朝の方が多い	朝より夕方の方がやや多い

6 まとめ

研究前に見られると予想していた鳥は10種だったけど、去年の山崎賞のときに26種類、今は31種類の鳥を家の周りで観察することができている。予想以上に鳥が身近にいることがわかった。

今回は1年半までをまとめた結果、去年にはわからなかった、天気ごと・時間ごと・季節ごとの鳥の違いがわかってきた。一番驚いたのは、一年間ずっと身近にいるはずの留鳥が、巣立ち以外にも時期によって変化したことだ。これからも四季の移り変わりと鳥の関係を調べてみたい。

7 感想、今後の課題

毎日、朝と夕方に観察するのは、寒い日や暑い日もあって大変だったけど、鳥の好む時間や季節がわかってきた。思ったよりも多くの鳥が身近にいるとわかって、うれしかった。

ぼくの夢は鳥とコミュニケーションができるようになることだ。鳥は目が良いし、空も飛べるので、鳥と話ができれば、海や山で行方不明になった人をカモメやタカに頼んで探してもらうことや、鳥の気持ちを聞き、鳥が住みやすい環境もつくれる。人間と鳥が共存できたらいいと思う。

8 お世話になった人

- ・「日本野鳥の会・遠江支部」の皆さん（永山孝明さん、徳田英雄さん、山村京子さん）
- ・「静岡STEMアカデミー」の先生（大石隆示先生、仲村篤志先生、青木克顕先生）